

CEL ホームページ

<https://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。

※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。
下記の二次元コードで読みとることができます。



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

note コラム

<https://note.com/ognwcel/>

volume134
March 2024

特集

ウォークブルの本質を考える

2024 (令和6) 年3月1日発行

発行

大阪ガスネットワーク(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

金澤成子

企画・制作

熊走珠美

特集担当

小西久美子

編集人

日下部行洋 (平凡社)

編集

㈱平凡社

アートディレクション & デザイン

okamoto tsuyoshi +

校正

㈱アンデバンダン

印刷・製本

㈱東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2024 OSAKA GAS NETWORK CO., LTD.

※禁無断転載複製
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は
必ずしも大阪ガスネットワークの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

ウォークブルが生み出す活力

大阪ガスネットワーク(株)エネルギー・文化研究所

所長 金澤成子 Kanazawa Shigeko

人口減少や少子高齢化が進み、商店街のシャッター街化など
地域活力の低下が懸念されるなか、新たな価値を生み出
して都市の魅力を向上させることが求められている。

ニューヨークに代表される「パブリックスペース」の再編は、コ
ロナによるパンデミックで一層加速したが、日本でも、さまざまな
官民のパブリックスペースで社会実験が行われつつあり、まさに
「ウォークブルなまちづくり」の黎明期といえる。ウォークブル政策
を推進するきっかけとなった、国土交通省主催の懇談会では「世
界における生産性の高い都市とは、歩きやすい都市である。いい
環境こそがいい人呼び、いい産業を生み出し、またそこに人が
やってくる、という好循環が生まれる」とした。都市の魅力を活か
したウォークブルなまちづくりには、公と民、個人と組織を超えた
相互理解と主体的に関わる動機が必要であり、社会実験は、そ
の関係性を生み出し、将来のイメージを共有するためにも必要な
プロセスといえる。

今号では、さまざまな事例と視点から「ウォークブル」の本質を
考察した。御堂筋における官民連携で取り組む人中心でウォーカ
ブルな空間への再編では、地域に関わる人々自身が、まちの将
来像を考え、「シビックプライド」をもつことが重要だという。コン
パクトシティ推進に大きな役割を果たした富山「グランドプラザ」
の成功は、新たな領域に対し、役所と地域の人々がどう向き合っ
たかにある。それは、よい人間関係というだけでなく、まちづくり
のプロセスの転換から自由な運営や具体的なアイデアが生まれた
ことが大きな要因であった。

ウチとソトを明確に分ける文化をもつ日本では、社会実験を通
じて、パブリックスペースの新しい使い方にトライし、振る舞い方
を学習することで、ウォークブルなまちへとシフトチェンジしていく。
官民連携で多様な領域のプレイヤーが、主体的に関わり、関係性
を築いていけば、自然とまちはウォークブルへと動き出し、そこを
訪れる人が「よそ者」と感じることはない、インクルーシブな真の
活力が生まれてくるのではないだろうか。